



総合学科家政科学系列 保育系・被服系

つるおか KINU（絹）まちめぐりを企画

鶴岡の絹文化体験 女子高校生の視点で魅力発信



鶴岡中央高校の女子生徒12人が28日、和服姿で市街地を歩き、鶴岡の絹文化を体験して地元的女子高校生ならではの視点で魅力を発信する課題研究に取り組んだ。

「つるおかKINU（絹）まちめぐり」と題した課題研究の一環。同市内の4つの呉服店をつくる鶴岡呉友会主催の「きもので雛めぐり」が3月下旬に行われ、参加した生徒2人が他の生徒に呼び掛け、今回の取り組みを企画した。

参加したのは同校総合学科家政科学系列保育系の3年生4人と、和裁を習う同系列被服系の2年生8人。

鶴岡中央 和服姿で市街地巡る

同市の銀座通りにある呉服店「小いけ」で、自分たちで選んだ着物を着付けしてもらい、同じ通りにあるまちづくりスタジオ鶴岡Dataで帯や髪に着ける繻玉を使ったクラフトを体験した。

致道博物館に移動し、鶴岡の伝統産業の絹織物の歴史について学んだ後、和服のまま近くの荘内神社を参拝するなど、城下町鶴岡の景色に溶け込みながら「まちめぐり」で着物の良さをアピール。SNSを使って撮影した画像を発信した。

企画した保育系3年の成澤虹歩さん(17)は「着物を着てお雛様巡りをした時、

何だかまちの景色がいつもと違って見えた。着物でまち街歩きするのはとても貴重な体験。これから女子高校生ならではの感じ方で着物の良さを広めたい」と話した。

着物を着付けしてもらった後、談笑しながらまち歩きする鶴岡中央
高生